【成果概要】0-2 農林水産分野における気候変動影響に関する調査

調査結果の概要

■ 成果

- アンケート調査及びヒアリング調査を通じて得られた知見をもとに、本調査を通じて分かったことを「全体認識」、「リスクに関する調査より」、「チャンスに関する調査より」の各観点から結果を抜粋してまとめた。

全体認識

農業の歴史は気候対策の歴史でもある

農業は気候の影響を大変受け易い産業であり、古くから気候への対策が講じられてきた。特に果樹生産は、気候変動の影響を大きく受ける。

これまでのやり方では間に合わなくなりつつある

多くの気候影響に対し、これまで農家の長年の勘や経験、従来技術等を用いて対処してきたが、近年では対処できる範囲を超えるほど、気候が極端になっている。

既に多くの影響が出ている

本調査を通じ、ほとんどの都道府県で、気候変動によると見られる果樹への影響が生じていると回答された。気候変動の影響は地域の産業全体に影響を及ぼす可能性がる。

リスクに関する調査より

地域に応じて、様々な対策がとられている

生産現場では遮光やかん水等、様々な気候変動対策が講じられている。試験機関や先進的な農家では、将来を見越した適応策が実施されている。

適応策の導入には、地域での協力が有効

新技術の導入や品種の転換には、地域内でのリーダー的役割である篤農家や、部会等の組織が大きな役割を果たすことが示唆された。

農家にとってのメリットが大きいと、対策は大きく進む

費用対効果の面などから、適応策の導入が農家にとって具体的にメリットであると認識されると、導入が大きく進む。

果樹生産は数十年先を見越した対策がいま、求められる

数十年後の気候変動予測に基づいて、将来の気候に耐えられる品種開発を今から行う必要がある。

チャンスに関する調査より

温暖化を活用した取組み

気温上昇によりこれまでは寒すぎて作れなかった品種が栽培できるようになったり、より高温や乾燥に対応した品目を導入したりする例が見られる。

熱帯果樹の栽培に注目が集まっている

九州・沖縄地域等の西南暖地では、アボカド、パッションフルーツ、青パパイア等の熱帯果樹の栽培への取組が始まっている。

優位性が導入のカギ

技術的な栽培のしやすさ、販売価格の高さ等、いくつかの優位性が導入に際し要因として挙げられる。

安定生産と販路の確保

売れなければ農家にとってメリットはない。新たな品目を生産する際は、販路が確保されている必要がある一方、販売には安定生産が必要でもある。